

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**TOWA 京都東工場第4期増築工事**

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>2.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>						
<b>1 音環境</b>						
1.1 室内騒音レベル		-	-			
1.2 遮音						
1 開口部遮音性能						
2 界壁遮音性能						
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						
1.3 吸音						
<b>2 温熱環境</b>						
2.1 室温制御						
1 室温						
2 外皮性能						
3 ゾーン別制御性						
2.2 湿度制御						
2.3 空調方式						
<b>3 光・視環境</b>						
3.1 昼光利用						
1 昼光率						
2 方位別開口						
3 昼光利用設備						
3.2 グレア対策						
1 昼光制御						
3.3 照度						
3.4 照明制御						
<b>4 空気質環境</b>						
4.1 発生源対策						
1 化学汚染物質						
4.2 換気						
1 換気量						
2 自然換気性能						
3 取り入れ外気への配慮						
4.3 運用管理						
1 CO <sub>2</sub> の監視						
2 喫煙の制御						
<b>Q2 サービス性能</b>			<b>0.43</b>			<b>3.5</b>
<b>1 機能性</b>						
1.1 機能性・使いやすさ						
1 広さ・収納性						
2 高度情報通信設備対応						
3 バリアフリー計画						
1.2 心理性・快適性						
1 広さ感・景観						
2 リフレッシュスペース						
3 内装計画						
1.3 維持管理						
1 維持管理に配慮した設計						
2 維持管理用機能の確保						
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.1</b>	0.50			<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>4.0</b>	0.30			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	ALC: 40年	5.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	ビニル床シート: 20年	5.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20			
2.4 信頼性		<b>2.4</b>	0.20			
1 空調・換気設備		3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20			
3 電気設備		3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5 通信・情報設備		1.0	0.20			

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.8</b>	0.50		-	<b>3.8</b>
3.1 空間のゆとり			<b>3.8</b>	0.30		-	
1 階高のゆとり			3.0	0.60		-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率: 0.09	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり		床荷重: 4500N/m <sup>2</sup> 以上	<b>5.0</b>	0.30		-	
3.3 設備の更新性			<b>3.0</b>	0.40		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.57</b>		-	<b>2.1</b>
1 生物環境の保全と創出			<b>1.0</b>	0.30		-	<b>1.0</b>
2 まちなみ・景観への配慮			<b>3.0</b>	0.40		-	<b>3.0</b>
3 地域性・アメニティへの配慮			<b>2.0</b>	0.30		-	<b>2.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>2.0</b>	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>2.0</b>	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>							<b>3.7</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>		-	<b>4.2</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-		-	
2 自然エネルギー利用			<b>3.0</b>	0.13		-	<b>3.0</b>
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = -	<b>5.0</b>	0.63		-	<b>5.0</b>
4 効率的運用			<b>3.0</b>	0.25		-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00		-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50		-	
集合住宅の評価						-	
4.1 モニタリング						-	
4.2 運用管理体制						-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>		-	<b>3.0</b>
1 水資源保護			<b>3.4</b>	0.20		-	<b>3.4</b>
1.1 節水		省水型機器の採用	<b>4.0</b>	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			<b>2.7</b>	0.60		-	<b>2.7</b>
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上材を容易に分別可能	4.0	0.22		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			<b>3.3</b>	0.20		-	<b>3.3</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	0.70		-	
1 消火剤			-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0.01未満かつ、GWPが低い発泡剤を用いた断熱材等を使用	4.0	0.50		-	
3 冷媒			3.0	0.50		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>		-	<b>3.7</b>
1 地球温暖化への配慮		LCCO2の排出量削減に配慮	<b>4.9</b>	0.33		-	<b>4.9</b>
2 地域環境への配慮			<b>3.3</b>	0.33		-	<b>3.3</b>
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の使用なし	<b>5.0</b>	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.2</b>	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制			2.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			<b>3.0</b>	0.33		-	<b>3.0</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40		-	
1 騒音			3.0	1.00		-	
2 振動			-	-		-	
3 悪臭			-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40		-	
1 風害の抑制			3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制						-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			<b>3.0</b>	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	